The Russian Generals very politely lay down their arms.

日本萬歲百撰百笑

○大男の兵突張　骨皮道人

淺草の觀世音ハ一寸八分でも、一丈餘もある大仁王を門番に使ひ、山椒ハ小粒でも、其ヒリヽと辛い事ハ、一尺有餘の大絲瓜に優るやうなものゝ、日本と露國とを比較て見れば、彼奴ハ仁王か、イヤ仁王としても勿体ないぎる、先づ絲瓜郎と云ふ、お當ぶ、その絲瓜郎ゆめが不埒千萬まも、我が日本男児を見損ひて、小國ぶの小男だのと軽蔑て居るが、イザ力競べとなると、彼奴めハ丸で芋虫同様のコロくぶ、それゆゑ日本兵の姿さへ見れば、一も二もなく平突張に降ゝ來する、或日のこと、日本の招校が例の通り勇卒數名を卒ゐて、整々堂々歓地へ向ふんとする打柄、大勢の露兵が突然顯れ出るので、我勇兵ハ直に銃劍を抱えり「ソレ露兵を田覚差すぞと身構へすると、露兵ハ膽を潰して、軍器一切を其處へ投げ出し「此通りなるを突て平に謝罪ますから、どうぞ田覚差の儀ハお免しを願ひますといひながらクシ〳〵泣出し

明治三十七年六月廿日印刷　仝年仝月二十日發行　画作兼發行者日本橋區吉川町二番地　松本平吉（電話浪花二千二百八十六番）